

ためひさ いけ  
為久池



為久池は岡田小学校の東約400mのところであり、池尻から大東川の支流沖川が流れ出ています。

岡田地区は讃岐山脈が北に傾斜する山地の最末端部にあたる海拔約50mの台地上にあり、いく筋もの浸食谷が発達し岡田地区のため池の多くはこの浸食谷を利用して造られています。

為久池や皿池、北原池などや飯山町に属する仁池、大窪池もその一つであり、これらの池の受益地は飯山町内にあるものが多く、為久池も灌漑面積26haのうち約6割が飯山町に属しています。為久池や皿池などは亀越池が造られた後小津森池・仁池・大窪池などと共に同時期に順次造られたものと思われます。

為久池の池敷は浸食谷の最上部にあるため貯水は岡田上の天神から1.5kmの導水路を通じて行われ、岡田上や岡田下の用水路を兼用している上、水路幅も狭く距離も長いため水路の保守管理に苦勞が絶えませんでした。

その後は昭和28年から始まった県営土器川右岸用水改良事業や昭和50年の香川用水の通水によって貯水の苦勞も半減しています。

貯水量は、82,500m<sup>3</sup>

つくられた正確な年代は不明ですが、貞享三年(1686年)以前に存在していたようです。